

園だより夏休み

主はわたしを草原の原に休ませ 憩いの水のほとりに伴い 魂を生き返らせて
くださる。

詩篇 23 篇 2~3 節

熱中症警戒アラートが朝から出るような猛暑の日々が続いた7月となりました。今年度は園の新しい体制に対応しつつの1学期の日々でしたが、子どもたちの生活そのものは変わることなく、主体的にその自らの力を十分に発揮しながら「いのちを輝かせる日々」であったこと、「伸びゆく力を信じて」幼稚園の日々を過ごし、夏休みを迎えられますことに何よりも感謝致しております。

1つの例ですが、初夏の頃、朝の挨拶をしている私に「ブランコ貸してくれないの・・・」と訴えてくる子どもたちがいました。その様なときは「〇〇ちゃんも乗りたいねえ」と共感しながら頃合いをみて「〇〇ちゃんも乗りたいみたいよ」と乗り続けている子に声をかけ、待っている子たちには「代わって欲しい気持ち何度も伝えよう」と自らの思いを伝える助言をしました。でもずっと乗り続けていたい子は聞こえないふり……。また、動いているブランコを無理やり止めて乗り込もうとする子もいました。保育者たちは注意深く見守りました。暫く葛藤の日々は続きましたが、気付くと代わって欲しい子の声に応じて交代する子の姿が。「今乗ったばかりだからちょっと待ってて」なんて言葉を交わしながらの姿も。そんな様子を中々代われない子たちは見て聞いて感じました。そして、夏を感じる頃には私に助けを求める子どもたちはいなくなりました。合わせてブランコの交代は何ともスムーズに行われていました。無理やり乗り込んでいた子も「ブランコかーわって」と、至極当たり前に交代の時を待っています。保育者たちが子どもたち同士のお互いの気持ちに気付けるよう寄り添う中、子どもたちはどれほどに自らの想いを巡らせていることでしょうか。そして個々のタイミング(心の動き)で行動に変化を起こします。ブランコの例でも、言われたから交代するのではなく、相手の思いを感じ交代する。「交代する」という行動は同じです。けれどもそのときの心持ちにはどれほどの違いがあるでしょう。豊かな遊びの中で育まれる自らに伸び行く力を実感します。

2学期も子どもたちの深い思いを感じ合いながらの日々を大切に過ごしたいと願います。暫くの夏休み、猛暑が予測されます。くれぐれもご自愛ください。神様の恵みに溢れた日々でありますことお祈りいたします。

園長 駿河 幸子